

アカシア夜話 アカシアンナイト 第2話



特色ある東海アカシア

東海アカシア会は他地区と少し違い
附属小学校の同窓会である東海豊葦会
と一体で運用されています。何故そう
なったのでしょうか。

また、すっかり平和になった今、あ
の戦争を体験された方は徐々に少な
くなっていきます。特に当時中学生の年代
で実際に戦闘の経験をお持ちの方は、
極僅かなのではないのでしょうか。

第2話は、東海アカシア会・豊葦会
2代目会長の鈴木文彦さん(38回)に、
偉大な初代会長であった曾田和之さん
(32回故人)の思い出とともに、この辺
りのお話をうかがいました。

発足の経緯

昭和36(1961)年1月、新見 忠さん
(21回故人)から呼び出しがあり、名古
屋での第1回東海豊葦会に出かけまし
た。そこには先輩のきら星のごときお
姉様方がそろっておられてびっくり。
愛知県教育長の渡辺捨雄さん(11回故
人)も来ておられ、にこにこされてい
ました。その時、曾田梅太郎先生(数
学教師故人)のご子息で豊川におられ
た曾田和之さんがつかつかと寄って来
られ、「鈴木先輩よろしく」と大きな声
で言われました。実は曾田さんの方が
先輩ですが、見た目が私の方が老けて
見えたので、そう思い込まれたよう
でした。後輩と分かったとたん、「おど
りゃー何ゆうとるんなら！」と態度が
一変し、以後まったく頭があがりませ
んでした。

この時は、女性8人男性7人で、男
性陣は小さくなっていましたが、翌年
以降の会では、徐々に男性が増えてき
ました。そこで、曾田さんの提案で、
附中・附高と一緒にということになり、
昭和39(1964)年に東海アカシア会・豊
葦会がスタートしたのです。その後は
曾田さんが、自腹を切ってまでこの会
を盛り上げ、何と33年間も我々を引
張って下さいました。今も大変感謝し
ています。

中学生の戦闘機パイロット

初めてお会いした時、曾田さんから
「自分は陸軍で偵察機に乗ったが、
お前は海軍で紫電改(海軍最後の新鋭
戦闘機)に乗ったと言っとるけど、
歳がいかに何で海軍に入れたん
なら？」と聞かれました。当時、「附属は
坊ちゃん学校だから軍に入れようと

ない非協力的な学校だ」と中国新聞に
叩かれていたので、親にも内緒で昭和
18(1943)年、中学2年生14歳の時に「予
科練に行きます」と手を上げたら、学
校が2年ほど歳をごまかしてくれまし
た。こうして海軍の飛行練習生を経て、
紫電改に乗って岩国・松山・鹿屋など
国内の基地を転々としたのです。

更に、「松山の時、へたくそな着陸を
して滑走路を突き抜けてしまった陸
軍機がおったので、ど叱ってやった。」
と言ったところ、「そりゃあワシじゃ。
あの時は急に便所に行きとうなって緊
急着陸したんじゃけえ」と言われ、思
わず「えー、先輩じゃったんか」とび
っくり。運命的な出会いでした。

松山当時、源田実司令(後の参議院
議員)に、「お前は附属なら、曾田とい
うやんちゃ坊主を知っとるか？」と聞
かれ、「いえ、知りません。」と答えたら、
「あいつを知っとかにやいかんよ。」と
言われていたことを思い出し、不思議
な縁を感じました。



左から2人目が鈴木文彦さん、左端が奥様

そう言えば、私は敵のグラマン戦
闘機2機に追尾され必死で逃げ切った
が、それが結果的に敵を誘い込み、味
方の対空砲火で撃墜する事が出来たと
言う事で、感状まで貰ってしまった事
がありました。今の若い皆さんは、中
学生が海軍2等飛行兵曹として戦闘機
に乗って敵と戦ったなんて信じられな
いと思われることでしょうね。自分
でも腕の良い飛行機乗りだと思ってい
ましたが、もちろん戦争が終わったら附
属中学の4年生に戻りましたよ。

曾田先輩の思い出

曾田さんには発足以来の長きにわた
り会長をやって頂きましたが、平成9
(1997)年に私に引継ぎ、4年後に吉本
幹彦さん(41回)にお願いするまで、皆
さんのご協力を得て会長を務めさせ
て頂きました。この間、平成12(2000)
年10月に曾田先輩が亡くなられました
が、最後まで「くれぐれもアカシア
会をよろしく。」と言い残されました。

因みに、曾田さんは亡くなる直前に幹
事を自宅に集めて、病床から「さあ遠
慮なく飲め」と皆の飲み食いを嬉しそ
うに眺めておられました。その後自分
の葬儀の段取りを全て自ら手配され
て旅立たれました。「本日の主役」と書



曾田和之さん

かれたタスキをかけた
自分の写真を祭壇に掲
げ、参列者へのご挨拶
まで自ら録音しておら
れて葬儀時に流される
等、皆をびっくりにさせ
た豪快な武士でした。

曾田さんは酒豪で、特に日本酒を好
んでおられたので、東海アカシア会・
豊葦会はいつも座敷で和食だったため、
次第に女性陣の参加が減りました。私
が会長になった時、女性陣や若い人達
の参加を増やすために事務局と相談し、
例年の総会をフランス料理とワインの
店でやるようにしました。もちろん名
誉会長の曾田さんには特別に日本酒を
用意しましたが。結果的に、再び女性
陣の参加も増えてきて、46年前の第1
回豊葦会に出席されたお姉様方もお元
気に参加していただいていますし、若
い人達も徐々に増えてきています。

東海地方の特殊性として、官公庁・
会社関係の幹部で着任され、1~2回
はご参加いただいても、数年で異動さ
れることが多いのです。こうした状況
の中で、老若男女を問わずもっと多く
の皆さんが総会やビール会に参加して
くれて、日頃の交流を深め、この会が
一層活性化できればいいと思います。

この夏、暑さ日本一の記録となった
岐阜県多治見市の鈴木さんのご自宅に
押しかけ、お話を聞かせていただきました。
当日は特別お元気で、ビールと
ワインまでご馳走になりました。お話
の間中、奥様が横に控えて見守ってお
られ、必要な時には適切な助け舟を出
しておられたのも印象的でした。

附属の名誉挽回のためにあえて予科
練を志願して戦闘機乗りとして戦われ
た鈴木さん、そして曾田さんとの運命
的な出会い、今の若い世代には考えら
れないような時代があったのです。

曾田さんや鈴木さんのようなツワモ
ノ達がかつてアカシア会を引っ張ってき
てくださったのです。特徴ある東海アカ
シア会の誕生も興味深いものでしたが、
これからの新たな歴史を築き上げてい
かねばとの思いを強くした一日でした。
【監修：吉本幹彦(41回) 写真：中村博之
(43回) 文責：沖 信一(55回)】